

まちづくり大潟

発行、第100号 特別記念号

今までお伝えした活動を振り返ってみました。大きく開いてご覧ください。



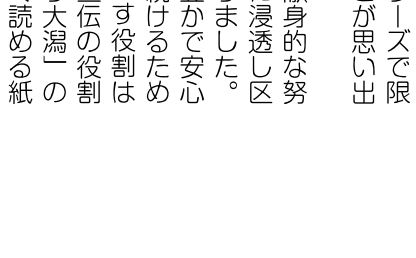
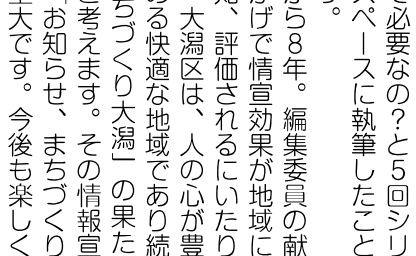
初代会長
西田 行男様

上越地域14市町村の合併を目前にして、平成16年11月に「まちづくり大潟」があらたに設立されました。合併協議が着詰まるなか、住民代表の委員会、「新たなまちづくりを検討する会」が議論を重ね、新しいまちづくりに対応するためにつくった住民組織であります。

当時を振り返ってみると、地域自治の仕組みが大きく変わる不安と日常生活のレベルを後退させてはならないという責任感、新たなまちづくりへの希望。などがなく、新境地となり非常に複雑な心境だったことが思い出されます。住民の間にも騒然とした雰囲気が出ていたように感じました。

この様ななかでスタートしたまちづくり大潟が、いち早く情報発信の重要性を認識して広報発行に踏み切りました。当時の役員、並びに広報発行に係わった会員の皆さんに敬意を表すると共に、そのご苦労に感謝申し上げます。

今回、まちづくり広報が100号の発行回数を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。今後、更に大潟区の情報伝達の媒体として進化し、大切な役割を担っていくことを期待しています。併せて、まちづくり大潟のさらなる発展を祈念申し上げます。



会長
後藤 紀一様

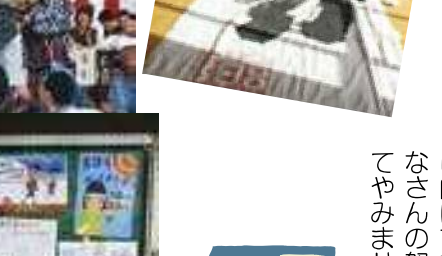
約8年半余りで100号を迎えた広報「まちづくり大潟」発行おめでとうございませう。この間広報に関わってこられたみなさんの労苦に心から感謝申し上げます。

広報には、「伝える」「残す」という普遍的な役割があるだけでなく、その時々々の状況が映し出されていく、編集に関わられた人の感性がにじんでいます。今では、身近な情報を伝えるミニコミ紙としての役割は益々大きくなっているのではないのでしょうか。

広報の発行には、発行期限があったり、紙面の制限があったりと多くの努力と苦勞の連続の上に成り立っているとされています。いろいろなメディアが発達していますが、「書く」「残す」という広報の役割は当分続いて行くと思われます。

広報「まちづくり大潟」が今後も地域の活性化や町を良くしたいと思う人たちの絆となって、継続して行きたいと思っております。皆さんのご協力、とりわけ身近な情報の提供を寄せて下さるようお願いいたします。

第1号は手作り
だったんですよ



前会長
小池 吉則様

お知らせ「まちづくり大潟」100号発行記念おめでとうございませう。平成17年の上越市との合併を視野に、大潟の生き残りを念頭に平成16年11月28日「まちづくり大潟」が設立され、「まちづくり大潟」の情宣紙として平成17年2月1日に、「お知らせ、まちづくり大潟」第一号がコミュニティ部会の編集によってA3片面印刷の形態で誕生しました。

この年の8月HPが開設され情報発信の体制が整いました。その後、A3版はファイル保存の難点などから平成18年4月15日発行の13号から現在のA4見開き4面の紙面になりました。

顧みれば発行当初は、自前の印刷で写真など判然とせず、組織の認知度の低いこともあって編集委員のみなさんの苦勞は大変でした。執行部もまた認知度を上げるため平成17年の夏、区民の意見・要望を聞き、活動にどう反映させるか夜遅くまで区内16会場で、地域懇談会を開催しました。

各会場では「何を質問したらいいか、全くわからない」といった声に戸惑い、なんとか理解してほしいと熱弁を奮い、お知らせの紙上に「まちづくり大潟」はどうして必要なの？と5回シリーズで限られたスペースに執筆したことが思い出されます。

あれから8年。編集委員の献身的な努力のおかげで情報効果が地域に浸透し区民に認知、評価されるにいたりました。今後、大潟区は、人の心が豊かで安心して住める快適な地域であり続けるために、「まちづくり大潟」の果たす役割は大きいと考えます。その情報宣伝の役割を担う「お知らせ、まちづくり大潟」の責任は重大です。今後も楽しく読める紙面を区民に送り続けてください。大変な苦勞ですが、200号に向けて編集委員のみなさんの努力に期待してやみません。



ふるさと

漂泊の詩人石川啄木は「ふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きにゆく」と詠っています。また、室生犀星は「ふるさととは遠きにありて思うもの、そして悲しくつたうものよしゃうらぶれて異土の…」と詩を書いています。

いずれも有名な文章なのでどなたも頭のかすみに記憶されていることでしょう。ふるさとは人それぞれの心の中にあり、百人百様、思いは異なりますが、かけがえないものだと思います。今回、大潟出身者で、東京を中心に関東圏で生活し、活躍している方々の組織、『東京大潟会』を通じ、会員の方からふるさと大潟の思い出を書いていただきました。

失われた砂浜



雁子浜出身
泉 信吾さん
弁護士

私は大潟町の雁子浜で生まれ、育った。実家は、国道8号線に面しており、海岸（砂浜）迄、約20

0m位の至近にある。海辺（うみべり）の方はご存じの通り、昭和30年代頃までは海岸の砂浜は7、800mもあり、波打ち際まで、全てマツチ棒の頭の半分程の小さな砂利ばかりのため（これは確か海中も殆ど同じだった）、砂埃もなく、夏の海水浴シーズンには台風とか悪天候で荒れている時を除き、海の水はいつも濁りは全くなく澄んでおり、水深4m、5mでも透き通って、天気が良ければ泳いでいる自分の影が海底に写っているのが良く見えることも珍しいことではなかった。

海水は、子供でもヤスで体長20cm位の海底のネズリ（鰈か鯡か定かではない）を水深3、4m位でも海底から見つけ、捕ることもできる程、澄んでいた。夕方まで真黒になって泳いでいると、時には鰯（体長12、3cmで背黒鰯か？）の群れが潮の流れに負けてか、生きたまま海岸に大量に打ち上げられ、子供でも小さなバケツに一杯捕え、家に持ち帰り、母親に喜んでもらったことを憶えている。

又、打ち上げられた、生きた鰯の頭と内臓と骨をその場で手で取り除き、海水で洗ってそのまま食べ空腹の足しにしたこともあった。

砂浜は砂利のため、海水で濡れたままの体で砂の上に寝そべっても、体に付いた小砂利は手でパラパラと簡単に落とすだけで体に埃も付くこともなかった。砂浜で草野球をやれる程、砂浜が広いため、夏の暑い日の午後は、砂浜は熱く、裸足で（海には家から裸足で行くのが当たり前だった）波打ち際まで辿りつくまでに、足の裏が火傷するほど熱くなり大変だった。

そして、海岸のどこでも地元漁師さんが魚の群れを見つけて急いで地引網を投じることができ（今はテトラポットのたぐいめ、地引網は全く不可能になってしまった）、引き手が足らず、近くで泳いでいた子供が手伝うと獲れた魚を褒美に2、3匹分けてもらい、誇らしげに家に持って帰ったこともあった。その他、薄暗くなつてから松明をかざしての波打ち際での「渡り蟹獲り」等々、海岸での色々の思い出は尽きない。

ところが、直江津港の整備のためか、石油採掘のせいとか、確かな理由は知らないが、この貴重な思い出一杯の自慢の海の砂浜が地盤沈下により、あつという間に全く消えて失くなり、今は海岸の浸食を防ぐためのテトラポットで全て覆い尽くされ、

海に入ることすらままならず、泳ぐこともできなくなりました。なんとも残念なこと、さりとて今更あの砂浜を取り戻すことなどとてもできるとも思われず、本当に悔やんでも悔やみきれず、怒りすら覚える。

ところが、昨年（平成24年）、大潟町中学校の我々同期の同窓会が隣の柿崎区上下浜で開催され、会場のホテルが海岸に近いところであり、泊まった翌朝、海岸に出てみたところ、上下浜の海岸は、昔よりは相当減少したようではあるが、未だテトラポットも全くなさく、昔のままに砂浜が保たれ、波打ち際には波が静かに打ち寄せては返し、心安らぐ波音を奏でており、ズボンの裾をまくって少し足を踏み込めば、ヤドカリや砂に潜む小さいヨソグリ（体長1cm位で蟹の一種か？）が今でもすぐ捕まえられるのであり、そして海岸には早朝からノンビリと投げ釣りをしている人たちが遥か彼方までポツンポツンと見られ、その先には米山が構えており、小さい頃、沖合に佐渡ヶ島が遠く霞み、日本海で朝から夕日が落ち始めるまで、真黒になって泳ぎ、遊び呆けたりした昔の失われてしまった海岸の景色を思い出し、懐かしい思いが一挙に蘇った。

子供の頃の思い出



潟町出身
田村 和之さん

頸城の名峰米山が美しく湖面に映える朝日池のほとり、潟町5区坂の下で生まれ育ち、高校卒業まで潟町で少年時代を過ごした。

家では、多くの動物を飼っていた。犬、猫、うさぎ、にわとり、ヤギ、羊、豚、牛は世話をしていたが、ねずみ、蛇も家の周りにいたので二十支の半分以上はいたことになる。

朝起きると、父ちゃんは、囲炉裏端でお尻に根っこが生えたかのように、あぐらをかいて湯のみ茶碗で美味しそうにお酒を飲んでた。田植え稲刈り時期の、猫の手も借りたような農繁期でさえも手伝いせず、舌なめずりしながら酒を飲んでた。子供の頃、酒は飲むまいと思っていたが、遺伝子のせいか二十歳過ぎたら一端の酒飲みになっちゃった。

小学校2年まで、潟町、九戸、雁子浜の生徒は中学に併設された分校に通い、3年から土底にある本校へ通うようになった。最初は緊張と戸惑いの感もあったが、あつという間に打ち解け、仲良くなり友達同士になった。しかし、周りも含めて女子生徒と遊んだという記憶はほとんど無い。

家から小学校まで約4キロ弱で歩いて小一時間程。決まった通学路はなくその日の思いつきで、本通り、山の道、時には蒸気機関車を横目に線路脇を歩いたこともあった。線路道が一番近道であったが、その頃の汽車のトイレは垂れ流し、非衛生な道であった。

通学途中、今は無くなっているが、松林の中に、冷蔵庫が無い当時、魚やさんが冬の間にたくさん雪を集めて作った雪室があり、中に入ると夏でもひんやりして気持ち良かった思い出がある。また、四ツ屋浜の道脇に、井戸があり滑車付きの釣瓶桶で汲み上げた水の美味しかったことは忘れない。山の道を通るといくつかの部落ごと、薪を使う火葬場（やきば）があり、そこは遠回りしたような記憶がある。

ポケットには折り畳みナイフ、肥後の守が入っており、主に鉛筆削りに使うが、時に細い竹を切つてゆるみ鉄砲を作り、榎の実を詰めて飛ばして遊んだ。学校から家に帰って生みそを塗ったおにぎりをほおぼつた後、五寸釘、ばっち（面子）、ビー玉等を持って出かけ、日が暮れるまで遊んだものである。初夏の頃、山の藪に入り、トゲのある木を裏返し、たわわに実った黄色い木苺を腹いっぱい食べ、また、口の中を真っ赤にして桑イチゴも食べた。本当に美味しかった。夏は海や池で泳ぐのが日課であった。潟町の海で部落の人たちが作った茅葺張りの浜小屋で着替え、遠泳や素潜りを楽しんだ。駅前御手洗池でも泳いだ。その頃の水はキレイだった。

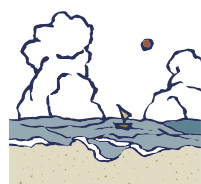
秋はコメの収穫時期、1週間の農繁期休みがあった。子供ながらそれなりに手伝いはしたつもりである。キノコ狩りも楽しみの一つで、松の根本近くに生えている初茸、キシメジ、あわたけ（網茸）などが採れた。根こそぎ採ることはせず、次のため一部は残す習わしがあった。学校帰りに実の先をばっくりあける前の熟したいちじくを戴い

た。自分の家に生っているのに、他所のいちじくや柿はこのほうが美味しかった。

子供の頃、雪は今より多かった記憶がある。自動車は少なく、大雪になると除雪車は通らず、大人がかんじきを履いて通学路を確保してくれた。学校の暖房は石炭を燃やすだるまストーブだった。生徒は交代で焚き付け用の松、杉の葉を家庭から持参し、火をつけるが、最初は燃え付きが悪く、徐々に勢いが強くなり、ストーブが真っ赤になるほどであった。

雪が解け、水温む頃、朝日池の周りの木々が芽吹き、新緑の季節到来である。しもやけの痒い手でミミズをつけて釣り竿をたらすとブルンと手のひらサイズの鮒が掛かる。

子供の頃は、テレビもなく外で遊ぶのが当たり前で、今思えば楽しい思い出ばかりである。しかし、今、生まれていけば間違いないゲームやテレビ等、インドアで遊んでいるだろつと思つ



まちづくり 大潟

まちづくり大潟広報版

お知らせ 第100号
発行 まちづくり大潟
発行責任者 後藤 紀一
発行日 平成25年12月1日
TEL/FAX 534-6810/6815

HP <http://o-gata.hs.plala.or.jp>
E-mail bz821727@bz03.plala.or.jp



前夜祭では、海音鼓がトリを飾った



袴姿もお似合いです



かっぱ祭り写真コンテスト作品展示



白の器、最後は八社五社で!



醫女さんの四季を表したクラフト作品

大潟作品展・白の器・福祉まつり 文化の秋に集い 新たにスタート

11月2日(土)3日(日)、大潟コミュニティプラザを中心に、大潟作品展、白の器(芸能発表会)、福祉まつりが開催されました。

コミュニティプラザ2階の各部屋には、絵画や切り絵、盆栽、クラフト、書道に加え、保育園や学校の子供たちの作品約400点余りの力作が展示されました。

芸能発表は「白の器」として生まれ変わり、うのんちゃんが司会を務めるなど新しい演出が随所にみられました。中でも、コミプラの中庭で行われた米大舟や玄関アプローチでの八社五社は、誰でも参加でき、盛り上がりを見せました。

福祉まつりでは、電動カーットの試乗や取り組みの紹介などが展示されました。

3つの行事が一度に開催されたことで、来場者も例年より多く来ていただくことができました。



電動カーットの試乗会



うのんちゃん、ヨッシャーマンも応援



フラの息の合った踊り



愉快なこんべえさん



盆栽談義に花が咲いた



最多出展、書道作品

環境部会

探歩

「自然のお宝湖沼めぐり4」
発見、土器片…に大盛り上がり

和いワイ環境ウォーク『見て学ぶ丸山古墳』が秋晴れの青空のもと、11月2日（土）大潟水と森公園で開催されました。大潟区内外から21名の参加者が自然のお宝を探して、湖沼めぐりを楽しみました。

森林インストラクター松浦正志さんの専門的で興味深い説明に何度も植物や樹木の前で足を止め時間を忘れて聞き入っていました。



植物種類のガイド

歴史ゾーンの丸山古墳では、講師の新保誠吾さんから丸山遺跡の説明をお聞きした後、湧水期で水の少なくなった鵜の池の砂地に移動して石器や土器の探索となりました。

突然、「アッター！見つけた！」と声があがりました。正真正銘、土器片の発見

の発見に、参加者も驚嘆。今回の目的であった「見て学ぶ」を実践できた瞬間でした。



土器片の発見

の発見に、参加者も驚嘆。今回の目的であった「見て学ぶ」を実践できた瞬間でした。

おおがたあんないとこんないと

犀潟町内「だいはまから」

「古宮台場」跡に石碑を建立

（上越市地域活動支援事業）

犀潟町内で海岸砂防林や神社周辺の黒松を守るつと、下草刈り、植樹、海浜植生の保護等のボランティア活動を実践している「だいはま会」では、平成25年度の「上越市地域支援事業」に応募し、天保15年に当時の江戸幕

府の命により、高田藩が構築したとされる大筒台場「古宮台場（ふるみやだいはま）」跡に「古宮台場跡地」と標した石碑を建立しました。

場所は、大潟町時代の教育委員会と観光協会によつて、平成3年に「古宮台場」跡を印す石柱が建てられた、通称「青山」と呼ばれる砂丘の台地で、犀浜七里、日本海を180度展望できる眺めの良い所です。

黒岩石の石碑に刻まれた文字の揮毫は当時の教育長を務められた平原周司さんにお願ひし、夷浜の山本石材店による製作で11月1日に完成しました。

今後も歴史を振り返りながら、県の一美しい森づくりアシスト事業」を実践していきます。



海を見下ろす「古宮台場跡地」

クラシックバレエ・モダンダンス 大潟でバレエを楽しみましょう

バレエパフォーミングアーツ

主宰 柳沢鹿の子

スタジオではストレッチから始まり年齢に即した少人数でレッスンをします。見学や体験レッスンができますのでご連絡ください。

—問い合わせ—
土底浜 2982-1
☎025-534-2231

慶弔引出物・記念品・贈答品

株式会社 南柳堂

〒949-3112 大潟区土底浜1032番地
☎ 534-4078 FAX 534-4157

大潟区新年顔合わせ会 開催のご案内



日 時：1月13日（祝・月） 14時～
 場 所：人魚館（トレーニングルーム）
 会 費：2000円
 対 象：区民のみなさん（大勢の参加をお待ちしています）
 参加申込先：まちづくり大潟 事務局（534-6810）
 締め切り：1月8日（水）



施設紹介

包括支援センター うのはな苑

私たち地域包括支援センターうのはな苑は、大潟区に住む高齢者のみなさんが安心して生活ができるように必要な支援を行う機関です。
 主な相談は介護保険や高齢者福祉サービスに関することですが、高齢者に関することであればどんなご相談も受け付けています。

一人で（家族で）悩まず、お気軽にご相談ください。
 また「地域で支え『愛』」をキャッチフレーズに認知症を理解し、認知症の方の応援者を増やす取り組みを行ったり、介護をしている方同士の情報交換やちょっとした息抜きの場として「介護者のつどい」を開催するなど、様々な取り組みを行い、地域に貢献していきたいと思っております。
 ご興味のある方はいつでもご連絡ください。

お気軽にご相談ください

当センターは、正課中が設置している高齢者の総合相談窓口です。みなさんが住み慣れた地域で安心して生活できるように必要な支援を行っています。

相談ごとの窓口（相談無料）

- 病気や生活のことで困ったことや心配なことがあるが、どこに相談したら良いかわからない
- 近所で見ている人がいるようだが、どうしたら良いかわからない
- 介護保険の申し込みをしたい

高齢者のお宅訪問

- 今は介護を必要としていない高齢者の方のお宅に個別に訪問し、生活の状況や健康についてお聞きしています

私たち専門職がお手伝いします



田中



秋山



黒井

介護予防・介護保険

- 種別や申請の手続き方法を知りたい
- 要支援1・2と認定された方のお宅へ訪問し、介護保険サービス等の調整を行います

みなさんの権利を守ります

- 財産の管理に自信がない
- 親の介護に疲れて親を怒鳴ってしまった
- 訪問看護等の消費者被害にあってしまった

社会福祉法人 上越市健康福祉会 運営
 ～ 人と人とのつながり

地域包括支援センターうのはな苑

（大潟区土蔵裏 5079 大潟区組合事務所内）

連絡先：535-1151

みなさまの快適生活をお守りします！

水廻り ガス 下水道 住宅設備

水廻りのリフォームしたいんだけどどこに電話したらいいのかしら？

そろそろこのコンロもだめねえ

お湯の出が悪いのお



地域の皆様と共に 街の親切なガス・水道・リフォーム屋さん

株式会社 **イズミ** 店舗営業所

最新情報はこちら☆イズミホームページ <http://www.j-izumi.jp>

365日アフターサービス

より一層のお客様満足へ！4月より新店舗オープン

日曜祝日もオープン！



この看板が目印！

国道8号沿いしみず屋さん近く！

☎ 025-534-6886

本社 / 上越市黒井 2598-29 TEL.025-544-5510 大潟営業所 / 上越市大潟区雁子浜 367-63 TEL.025-534-6886

大潟区暮らしのカレンダー 12月～

月・日	曜日	行事等	問合せ先
12・3	火	3歳児健診(受付時間:13:00~13:20) 大潟保健センター【対象:H22年9月~11月生】	市・産G
12・5	木	いきいきサロン・波柿浜町内会館	まちづくり大潟
12・12	木	いきいきサロン・やすらぎの家	まちづくり大潟
12・14	土	えほんのひろば(10:00~11:00) 大潟地区公民館 2階 和室【対象:幼児から小学生】	大潟地区公民館
12・17	火	いきいきサロン・上小船津浜町内会館	まちづくり大潟
12・18	水	いきいきサロン・下小船津浜町内会館	まちづくり大潟
12・19	木	いきいきサロン・土底浜町内会館 いきいきサロン・犀潟町内会館	まちづくり大潟
12・20	金	いきいきサロン・メンズ会	まちづくり大潟
12・21	土	すくすく赤ちゃんセミナー(9:30~11:30) 大潟保健センター【対象:妊娠16~25週頃】 ※事前の申し込みが必要です。	市・産G
1・7	火	1歳6か月児健診(受付時間:13:00~13:20) 大潟保健センター【対象:H24年4月~6月生】	市・産G
		1歳児健診(受付時間:13:00~13:20) 大潟保健センター【対象:H24年10月~12月生】	市・産G
1・8	水	歯科健診・フッ素塗布(受付時間:13:20~13:40) 大潟保健センター 【対象:H22年4月~6月生・H23年4月~6月生】	市・産G
1・9	木	いきいきサロン・やすらぎの家	まちづくり大潟
		いきいきサロン・波柿浜町内会館	まちづくり大潟
1・11	土	えほんのひろば(10:00~11:00) 大潟地区公民館 2階 和室【対象:幼児から小学生】	大潟地区公民館
1・15	水	いきいきサロン・下小船津浜町内会館	まちづくり大潟
1・16	木	いきいきサロン・土底浜町内会館	まちづくり大潟

《定休日等》

鶴の浜人魚館(毎週火曜日、祝日の場合は翌日)
12/31・1/1(1/2以降通常に営業)
体育センター、体操アリーナ
(毎週月曜日、祝日の場合は翌日)
12/29・30・31・1/1・2・3(1/4以降通常に開館)

問合せ	まちづくり大潟	534-6810
	大潟区総合事務所	
	総務・地域振興G	534-2111(代)
	産業建設担当	534-6803
	市民生活・福祉G	
	福祉担当	534-6805
	生活担当	534-6807
	教育・文化G	534-6808
	大潟地区公民館	534-4367

上越市社会福祉協議会からの

お知らせ

男性の料理教室

今年最後の教室は「そば打ち」を行います。昨年大好評でしたのでお早めにお申し込みください。(先着15名。定員に満たない場合のみ女性の参加も可能です。)
とき:12月11日(水)午後2時~
ところ:大潟老人福祉センター
内容:そば打ち(そばはお持ち帰り)
参加費:1500円
持ち物:エプロン・三角巾・筆記具
講師:秋山先生
申込み:市社協大潟支所
電話:534-2410

大潟区総合事務所からの

お知らせ

「献血にご協力ください」

赤十字血液センターと市では、大潟ライオンズクラブ、公益社団法人高田法人会大潟支部の協力により献血を行います。冬季は血液が不足しています。血液の安定供給のため、皆様の積極的な協力をお願いします。
献血種別:全血献血
とき:平成26年1月17日(金)
時間:午前10時~午前12時
午後1時15分~
午後3時30分
ところ:大潟保健センター
問合せ:市民生活・福祉グループ

年末年始の休業について

●大潟区総合事務所
窓口開設
12月30日(月)
住民票等の窓口を開設します。
お休み
12月28日(出)・29日(日)
12月31日(祝)~1月5日(日)
※出生・死亡・婚姻届出などは、時間外でも受付けます。
詳しくは、広報上越12月15日号をご覧ください。
●大潟コミュニティプラザ
お休み
12月29日(日)~1月3日(金)

編集後記

人類の生存に不可欠となった電気エネルギー。その生産方法は原子力に依存するものと化石燃料によるものに代表されます。
しかし私たちは今、2つの難題に直面しています。
一つは、平成11年3月11日の東日本大震災で副次的に発生した福島第一発電所の原子炉制御不能事故。もう一つは、先日11月8日フィリッピン島のレイテ島を襲った台風30号の被害。これは二酸化炭素による地球温暖化が起因と言われています。
今、この問題について国の指導的立場にある人たちが声高に自己主張を展開していますが、両者を勘案した発言になっていないのは残念です。
さて、あなたはどの様にお考えでしょうか。
K・K

まちづくり広報100号を一つの区切りとして、今までお伝えしてきた、まちづくり大潟の活動をカラー紙面で振り返ってみました。いかがでしたか?ご感想などは、非、お知らせください。励みになります。

まちづくり大潟は、12月28日(土)から1月5日(日)までお休みします。次号は1月15日発行です。